

◎地図読みから山座同定へ

まずはハイキング等で山に慣れてきたら、地図の見方を覚えてみよう。何気なく見ている地図には大切な情報が一杯詰まっている。そして地図を見て頭に描いた地形と、実際に眺めた景色が同一になる様、訓練してみよう。詳しい事は「地図読み教室」で勉強してもらい、ここでは基本事項を簡単にまとめましたので覚えておいて下さい。

1. 地図読み

①登山地図

- ・最も一般的なのが、右のような昭文社の「山と高原地図」である。ご覧のように山歩きに大切な情報が満載である。まず、コースタイム。登山客の標準歩行で書いてある。最近高齢者が多いので新版では多少遅めになっている。まずこのタイムで歩けるようになって欲しい。
- ・一般的に縮尺は1/50000のが多い。細かい地名や小屋の最新情報、展望等も載っている。大きなエリアをカバーしており周囲の山が見つけ易い。



②地形図

- ・国土院発行の地図で、日本全国の基本図である。①もこの地図を基に作られる。一般的には1/25000の縮尺である。
- ・比較するとわかるが、地図上の文字による情報量が少ない代わりに、等高線がはっきり読み取る事が出来る。沢筋、尾根筋が読み取れ、道迷いの時など、周囲の状況を的確に把握して、行動を起こす事が出来る。等高線の細い線は10m、太い線は50m間隔である。又地図上の1cmは250mに相当する。残念な事に更新がなされないまま。
- ・地形図に走る斜めの線は磁北線で、自分で追記した物で、磁石の北が真の北よりどれだけ、ずれているかを知るためである。緯度により異なり、丹沢付近では約7度。普通、両者を持ち歩く事が原則であるが地形図はパソコンから印刷可能であるからそれを利用しても良い。



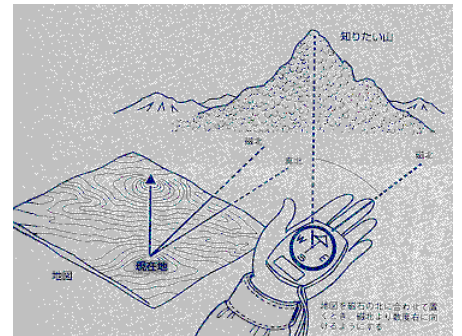
③地図の見方

- ・地形図では傾斜が急になると等高線の間隔が狭くなり、緩やかになると広がる。又経験則であるが、1時間に約250m位の登山が標準である。下りは登りの6~7割程度が標準である。
- ・日本の標高の基準点は、東京湾の平均水面を0とし、国会議事堂の尾崎記念館の基準点、24.4410mが原点である。
- ・方向は地図の上部が北、右は東、左が西である。三角点は1~3等までであるが、文字が刻まれている面が、原則南である。又ピークに向かってせり上がっている地形が谷、ピークから押し出している部分が尾根である。
- ・細かい記号については徐々に覚えよう。又、地図と目前に広がる山々の形状や、距離感、位置関係を身に付けよう。

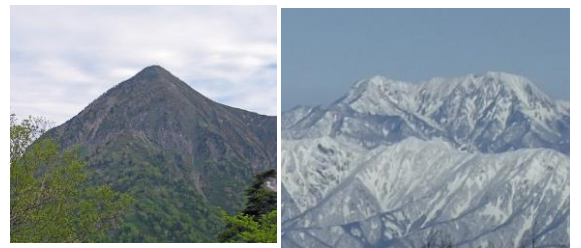
2. 山座同定

①地図とコンパスを利用する方法

- ・山に登って、周囲の山々を見渡し、各ピークの名前が解れば山登りが更楽しくなり、次の目標につながっていく。この目的の山や周囲の山を見つける事を山座同定という。
- ・やり方は磁石で方位を確認し、北の方向がわかったら、これに合わせて地図を置く。この時、磁北線の傾きに注意をする。
- ・知りたい山、すでに知っている山が、北からどの方向にどの位離れているかの見当を付けて見渡す。慣れないと奥行が有るので、意外と難しい。尾根の張りだしや、鋭峰か鈍峰か等周囲の状況と比較しながら見定める。
- ・遠くの山の場合、「山と高原地図」の裏側の広範囲の地図を使うと便利である。
- ・また、特徴のある山である「富士山」「槍ヶ岳」「鹿島槍ヶ岳」「北岳」「御嶽」「浅間山」「八ヶ岳」等大きく有名な山を目印にすると見つけ易い。
- ・更に角度の違いによる山の見え方の変化にも注意が必要である。右の高妻山は見る方向により、その山容が大きく変化する。戸隠の登山道から見ると円錐形をしているが北アの八方尾根からは馬の鞍の様な。



地図とコンパスを使って山座同定



「戸隠から高妻山」「八方から高妻山」

②書籍による方法

- ・山座同定の手っ取り早い方法がある。主に百名山からの眺めた物が多いが、「パノラマ案内図」である。百名山の山頂から周囲360度の展望を右下の写真の様に解説している。
- ・登山する際、この図をコピーして持って行くと便利である。そして繰り返し見ていると覚えらる。百名山以外の場合は推定して使う。

③カシミアール3D等ソフトの活用

- ・このソフトは地図上のいかなる地点からも360度パノラマ展望が描ける事である。写真ほど精緻ではないが、平面地図を基に描いたには見事に表している。広角、望遠、四季の景色、鳥瞰図も見られる。
- ・またこのソフトは地図上での登山道の高低差も連続して表示する事も出来る(ソフトの種類による)ので、予め登山道の様子を把握できる。今後、これらに頼らずに、経験により山座同定を出来るようになって欲しい。

